

ヘアリーベッチで 肥料の地産地消を！

ヘアリーベッチの特徴

- 水はけの良い土壌を好む。
- 根粒菌によって空中窒素を土壌に固定し、地力増進や土壌物理性改善等への効果を発揮する。後作物の減肥に役立つ。
- アレロパシー効果による一年生雑草抑制が期待できる。
- 藤色の花が咲き、景観美化や蜜源植物として利用できる。

早生タイプ

湿害が気になる圃場に

※ヘアリーベッチ自体は耐湿性が低い草種であるため、排水対策を実施して栽培してください。

藤えもん (品種 マッサ)

- 低温伸長性と耐湿性に優れた早生品種。
- 生育、開花が早いため、早期すき込みに適する。
- 寒太郎との混播利用で長期的な開花リレーが可能。

畑地への春播き栽培に

まめ助 (品種 ナモイ)

- 早生品種で初期生育が旺盛なため、雑草との競合に優れ、雑草抑制効果が高い。

晩生タイプ

長期間栽培による雑草抑制、寒・高冷地の越冬利用に

都府県限定

寒太郎 (品種 サバン) / 雪次郎 (品種 ハングビローサ)

- 越冬性に優れ、積雪地帯での秋播き越冬栽培が可能。
- 晩生品種で生育期間が長いので、早生品種に比べて長期にわたり雑草抑制効果が期待できる。
- 藤えもんとの混播利用で長期的な開花リレーが可能。花の位置が高いため、蜜源作物としての適性が高い。

栽培のポイント

- 水はけが悪い圃場（水田など）へは明渠や暗渠を作り、排水対策を行ってください。
- 減肥目的で利用する際は収量調査を行い、すき込み窒素量を算出してください。
 - ① 平均的に生育している場所の1㎡あたりの生草重を計測（0.25㎡の生草重×4＝1㎡の生草重でも可）
 - ② 生草重kg/㎡×4＝窒素量kg/10a ⇒ 慣れてきたら目視で確認（草丈約40cmで8kg/10aの窒素量）※すき込み窒素の後作での利用率は40～60%（土壌や気温によって異なる）。
- つる性のためすき込む際は細断機（ハンマーナイフモア、フレールモア）で細断してからすき込んでください。細断機が無い場合は草丈約30cmですき込んでください。



マメ科緑肥を活用した水稲の減肥栽培

ヘアリーベッチなどのマメ科緑肥作物の根には根粒菌が共生します。この根粒菌は空気中の窒素を固定し、作物体にアンモニアを供給します。これにより、マメ科緑肥作物の作物体中には窒素が集積していきます。マメ科緑肥作物を土壌中にすき込むと、微生物のはたらきを受けて、有機態窒素の形態からアンモニア態窒素、さらには硝酸態窒素へと形態が変化していきます。水稲はアンモニア態窒素を好むため、硝酸態窒素になる手前で窒素の分解を止める必要があります。硝化細菌が活動するには酸素が必要であるため、湛水してしまえば硝化細菌の動きがとまりアンモニア態窒素でとどめておくことが可能です。

■緑肥作物すき込み後、窒素はどう変化する？

マメ科緑肥作物すき込み後、畑条件では…

マメ科緑肥作物すき込み後、入水して湛水条件にすると…



窒素コントロール法

ヘアリーベッチの生育量が足りない、もしくは繁茂しすぎた、となった場合には、下記のフローチャートを参考に対処してください。

